

第6回「日本薬局管理学会」年会

主催 特定非営利活動法人 日本薬局管理学会

後援 日本薬学会 日本医療薬学会 日本医療・病院管理学会 日本社会薬学会
日本薬剤師会 日本病院薬剤師会 東京都薬剤師会 日本薬剤師研修センター

日時:平成23年6月26日(日) 11:00～

場所:津田ホール(JR千駄ヶ谷駅前)

東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-18-24 TEL 03-3402-1851

●シンポジウム 11:15～14:20

座長 昭和大学 薬学部 医薬品情報学教室 教授 加藤 裕久
座長 谷山会営業局 本店 薬局長 山門 慎一郎

保険薬剤師の将来の活動に向けて

- 薬学的介入の課題解決をテーマとして -

1. 薬薬連携 聖隷浜松病院 薬剤部 薬剤部長 塩川 満
2. 薬剤師への期待 ピースクリニック中井 院長 永山 淳
3. 薬剤師のステップアップ・薬学教育 昭和大学 薬学部 医薬品情報学教室 教授 加藤 裕久
4. 他職種との連携・現状の問題 フローラ薬局 代表取締役 篠原 久仁子

●教育講演 14:30～15:50

座長 日本大学薬学部 実践薬学部門 教授 亀井 美和子

CDTMと薬局薬剤師

共同薬物治療管理 (Collaborative Drug Therapy Management, CDTM) は、医師と薬剤師が特定の患者に対して患者ケアに関する契約を結び、この契約から生じる補助的な処方権に基づいて、薬剤師が患者の薬物治療を独自に管理するものであり、米国ではこのCDTM契約によって、薬剤師の裁量で優れた薬物治療が進められている。近年、日本でもチーム医療の推進が検討され、チーム医療における薬剤師業務が具体化に向け検討されているが、CDTM業務というものは地域の薬局で行う外来患者ケアのアウトカムに良い影響を及ぼしている。日本での展望も含みお話しいたします。

講師 東京薬科大学 薬学部 医薬品情報解析学教室 教授 土橋 朗

●特別講演 16:05～17:25

座長 昭和大学 薬学部 医薬品情報学教室 教授 加藤 裕久

提案 高機能がん診療所 -現状と展望-

がん化学療法は何でもかんでも大病院で行う、そのために患者は、日常生活も社会生活も犠牲にして通院、入院なくては行けない。挙句のはてに、もう治療はできませんと切り捨てられ、がん難民になっていくという、とても可哀そうな実態である。まるでコンビニエンスストアのようにコミュニティの中に位置し、日常生活のなかでがん診療をうけることのできる高機能ながん診療所が地域にあれば、患者にとってどんなによいことだろうか。

ひとつの社会実験ともいえる活動を浜松オンコロジーセンターの運営として行い、現状の問題点を明らかにしていく。たとえば、はたして保険薬局で外来化学療法に関係する内服薬を適切に調剤できるのだろうか、という問題は保険薬局薬剤師にとっては考えなくてはならない問題である。今後、高機能ながん診療所が普及、定着していくものか、それとも現在のようなタイタニック型メガホスピタルに収束していくものか、展望を明らかにしたい。

講師 浜松オンコロジーセンター センター長 渡辺 亨

特定非営利活動法人 日本薬局管理学会

〒104-0044 東京都中央区明石町 11-15

事務局: 望星築地薬局 内 担当: 原 和夫

TEL: 03-3541-1193 FAX: 03-3541-1974

E-mail: office@jas-pharm.com

詳細はホームページへ

<http://www.jas-pharm.com/>